

# 平成 29 年度 第 3 回横浜市学校保健審議会会議録

日時	平成 29 年 11 月 24 日（金） 午後 6 時 30 分から 8 時 30 分まで					
開催場所	関内駅前第一ビル 302 会議室					
出席委員 8 名	鈴木 志保子	渋谷 裕子	海上 良太	大木 昭子	大久保 辰雄	河野 伸二郎
	山岡 義卓	和田 喜久枝				
欠席委員 1 名	伊藤 秀一					
開催形態	【審議事項】横浜市として望ましい小学校給食のあり方について ・・・公開（傍聴者 2 人）					
議題	【審議事項】横浜市として望ましい小学校給食のあり方について					
決定事項	1 会議録の確認者は大木委員に決定する。 2 審議会の答申を決定する。					
議事	<p>1 会議録確認者の指名 横浜市学校保健審議会運営要領第 6 条第 2 項に基づき、会議録の確認者は大木委員に決定する。</p> <p>2 【審議事項】横浜市として望ましい小学校給食のあり方について (事務局) 前 2 回の議論や各委員の意見を集約し、答申の原案をまとめたので、報告を行った。</p> <p>○栄養価や食品構成の充足率等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年度から、基準献立原案と実施献立について、①学校給食摂取基準に対する充足率、②食品構成の標準値に対する充足率、③三品献立の提供回数、④魚の提供回数と種類を調べてみた。これを見ると、維持すべき献立の水準としては、平成 23 年度が最も望ましいが、これを実施しようとする、他の年度と比べて最もコストが高いと説明があった。費用面を考慮すると、三品献立の実施率が高く、栄養価においても 23 年度に最も近い 26 年度献立原案でも望ましい水準を満たしていると考える。</li> <li>・答申のエビデンスとして、資料に補足説明が必要。特に、26 年度と 28 年度と実施献立を見ると、エネルギー量も鉄分も多く、28 年度の方が高いのではないかと誤解が生じる。</li> <li>・28 年度の資料は、献立原案時点で栄養価を補うために基金で補ってんしている、というストーリーを補足して欲しい。</li> <li>・26 年度くらいの水準で給食を提供したいということで委員の意見は一致しているので、根拠を分かりやすく作成した方がよい。</li> </ul> <p>○和食の伝承について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・和食のメニューに牛乳があると違和感があるので、和食のときだけでも飲み物を麦茶等にして、伝統食を体感させることで貴重な体験になるのではないかと考えた。毎日麦茶とは言わないが、せめて行事食、特別食、年 1 回でもそういう日があってもいいのではないかとという提案をしたい。和食のメニューでは、味のないさっぱりとした飲み物を提供したい。</li> </ul>					

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 22 年度児童生徒の食生活実態調査によれば、給食がない日の昼食は、カルシウムが摂取基準の 3 分の 1 未満しかとれていない。給食で牛乳を出さなければ、これと同等の状況になる可能性がある。子どものカルシウム摂取量を考える必要がある。</li> <li>・牛乳がない献立があってもよいのではないか。一般感覚からしてご飯と合わない。食育を考えたら和食の味覚の分かる子どもを育ててほしいので、水やお茶を飲み、繊細な味が分かる味覚を育ててほしい。カルシウムは工夫して他の食材からとればよく、牛乳を外すのであれば、セットの話だと思う。</li> <li>・教育現場でいつも飲んでいる牛乳を否定してはいけないし、和食のときは合わないとは言ってはいけない。一生涯にわたり、ある程度のカルシウム摂取量は必要なので、高齢期になっても低脂肪にすることはあったとしてもカルシウムをとることは大事である。</li> <li>・年 10 回程度の伝統食の際に、お茶や麦茶などにするという話であれば、よいのではないか。</li> </ul> <p>(結論)</p> <p>答申は、「日本食をテーマにした伝統食のような特別な献立の日には、飲み物をお茶や麦茶等にも検討願いたい。」という文にする。</p> <p>○企業との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府の食育白書を見ると、各企業が、食育を進めることを目的に、いろいろな食育をテーマにした事業をもっている。わざわざ栄養教諭が市の限られたお金でやるよりは、企業とワンパッケージになったものを取り入れていくほうが、よいのではないかと提案した。もし「伝統食等の特別な献立を実施することも」というのが、誤解を生むのであれば「食育の和食を取り上げたときには、企業と連携し食育の授業の中に活かす」などに変えて、献立に活かすというよりは食育の授業の中に活かすとしたいと思うが、どうか。</li> <li>・これだけ読むと企業と組めるのであれば組むべき、とも読めるので、具体例を入れた方がよい。</li> </ul> <p>(結論)</p> <p>答申は、献立というよりは、授業に活かすという内容の表現にする。</p> <p>○「家庭における日常の食生活の指標となる給食の献立について」の項目の順番について、大事なものから記載すべき</p> <p>(結論)</p> <p>(1) おかずの種類について、(2) 素材を活かした献立について、(3) 給食の見た目について、(4) 将来を見据えた食育について、の順番に変更する。</p>
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市学校保健審議会答申 (案)</li> <li>・年度別献立比較</li> <li>・給食について児童へのヒアリング報告</li> <li>・平成 22 年度児童生徒の食生活実態調査</li> <li>・(参考資料) 法規集</li> </ul>